

第2回日吉津小学校運営協議会設置推進委員会会議要旨

と き 令和2年8月6日(木)
午後7時30分～8時55分
ところ 日吉津小学校子ども図書館
「多目的ルーム」

日 程

1. 開 会 午後7時30分から

- ・司会進行は横田課長
- ・出席者：井田博之(教育長)、山根直樹(社会教育委員)
井藤健志(地域代表) 三宅拓磨(P T A会長)
村上春菜(P T A副会長)、田辺昌宏(地域代表)
立脇賢二、林 順一、兼本修二、石 敬子(学校支援ボランティア)
山路由紀子(保育所所長)、矢倉美和子(小学校校長)
河本里美(小学校教頭)、長谷徳子(地域コーディネーター)
横田威開(教育委員会事務局)

- ・欠席者なし

2. あいさつ

- ・山根委員長

伯耆町前教育長、後藤弥先生を講師にお迎えして、「コミュニティ・スクールについて」講演いただきます。何か一つでも自分たちのコミュニティ・スクールに生かせるようにしたいと思います。よろしくお願いします。

3. 議 題

(1) 研修

○「コミュニティ・スクールについて」

講師：西伯郡スポーツ協会会長(伯耆町前教育長) 後藤 弥 氏

・何か一つでも参考にいただけるように具体的な話しをしていきたいと思います。コミュニティ・スクールは何がいいのかというあたりを話していかないとすんなりいかないと思う。

・伯耆町では、「地域とともにある学校づくりを基盤とした保小中連携一貫教育」ということで取り組んでいる。一つの手法としてコミュニティ・スクールがある。

日吉津村も保小、中学校は組合立になるが、連携ということで取り組んでほしい。

・インターネットで全ての人とモノがつながる社会。様々なニーズに対応できる社会。A Iにより必要な情報が提供される社会。ロボットなどの技術で人の可能性が広がる社会。

・今年度より新しい指導要領になっている。「よりよい学校がよりよい社会を作るという目標を学校と社会が共有して実現する」

これからの教育課程の理念としては、学校教育を学校内に閉じずに、社会と共

有・連携しながら実現させることである。

- ・伯耆町では社会に開かれた教育課程を実現するために、コミュニティ・スクールを手段として実現していこうということで取り組んでいる。

- ・日吉津村でもコミュニティ・スクールの取り組みが社会に開かれた教育課程につながっていくようにと思う。

- ・子どもの教育を学校だけで考える時代ではない。「めざす子ども像」を学校と家庭・地域が共有して信頼される学校をつくることが大切である。

- ・各学校に学校支援コーディネーターを配置し、町全体として各学校支援コーディネーターを統括する地域コーディネーターを配置している。

- ・日吉津村の場合は、小学校の芝生化推進をされた時、芝生の芝刈りの協力隊ができていたということを聞いて、ボランティアの素地があると感じている。

- ・伯耆町の場合は、6つの学校があり各学校に一人ずつ学校支援ボランティアの方がおられるので、それぞれの学校の情報交換をするために月に1回コーディネーターの定例会を設けている。

- ・伯耆町の支援ボランティア活動として学習支援、環境整備、学校行事、地域貢献（公民館祭り・町民運動会）などがある。学習支援の中では、ふるさと学習が一番多く、今後メインになるのではと思う。ふるさとを学習することで「ふるさとの良さ」を自分の言葉で語れる人に育っていく。これは将来につながっていくことだと思う。ふるさとに帰ってくる、ふるさとを大事にする人に育っていくということで、ふるさと学習というのは大事だと思う。

- ・家庭の教育力、地域の教育力を大事にしながら学力と人間力を育成する。

- ・伯耆町では、保小接続カリキュラム、小中一貫カリキュラムを作成しているが、つないでいくということが大事だと思う。そこで大事にしているのはめざす子ども像の共有である。保育所のめざす子ども像と小学校のめざす子ども像と関連性をもたせていくことが大事だと思う。

- ・学校運営協議会に地域代表や保護者代表に入っていただき、学校と社会とつながっていく。一方で、地域学校協働本部にPTAや青年団、老人クラブの方々がボランティアとして関わっていただき、社会と学校とつながっていくというような構想で伯耆町では取り組んでいる。

- ・これからコミュニティ・スクールを導入していくわけですが、一過性のものではない。学校教育のことなので、将来にわたって継続していくことが必要である。個人の力ではなかなか継続できない。組織として行っていくという組織づくりをしていくことが大事だと思う。

- ・コミュニティ・スクールとして大切にしてきたことは、子どもは地域の宝である。その子どもたちを自分も育てているんだという当事者意識が大事である。地域の人として保護者として無理をしないでできることをやっていくということが大事だと思う。

教育行政として支援をしていくことが大事である。予算の問題、人の問題など行政と連携をしながら取り組んでいく。

教職員やPTAとの連携協働ということで、伯耆町でもコミュニティ・スクールの取り組みに対して、はじめは理解してもらえなかったが、5年に1回アンケート調査を行っているが、5年たってみると意識がかわってきた。地域の方に学校に入っていただき、学校運営協議会で話しあっていくことによって、先生方も協力的になっていく。

伯耆町では、学校運営協議会の委員さん方が、夏休みに1年間の学校の評価を行っている。9月始まりで8月終わりにしている。普通は4月始まりで3月終わりだが。学校運営協議会の委員さんもそれぞれの部会に入って、1年間どうだったのか先生方と一緒に学校評価する。

はじめは、PTAと学校運営協議会とそれぞれ別々に活動をしていたが、今はPTAの役員さんと学校運営協議会の委員さんが一緒に話し合っている。子どもを育てるという視点は一緒である。

情報収集することは大事である。日吉津村だけを見るのではなくて、鳥取県、全国を見ながら、日吉津村はこうしようと考えようとすると思う。

計画をたてて、実践し、評価をして改善する。そういうプロセスを話していくということが大事になる。内だけを見ないで外を見てほしい。

・教師として一人の人間として、愛情と躰とモデル、学校運営協議会でも大事だと思う。

・礼儀や作法には必ず意味がある。「型」ではなく「意味」を伝え、意味と行動を結ぶことが心を育てる。

・コミュニティ・スクールを導入して、まず関わる人々の意識を改革していく、保護者や地域住民の教育活動への参画、学校・家庭・地域の連携強化をしていく。そして、学校・家庭・地域の課題解決に向けた動きを進展させていく。そして学校や地域が元気になっていくんだという好循環をつくってほしい。

コミュニティ・スクールの取り組みは、学校づくりを通して地域もよくなっていく。地域も元気になっていく取り組みである。

○質疑応答

〈質問〉日吉津村は、スタート前だが、持続可能な取り組みということが大きなポイントになると思うが、大切にしていくことは何か。

【答弁】ボランティアの方々に一生懸命やっただけだが、だんだん重荷になっていくのではないかと心配しており、できるときにできるようにということを思っている。来年度、立ち上げて学校運営協議会になっていくわけだが、あれもこれもしないといけないと思ってしまうと長続きがしない。まず手始めに取り組んでみようかという感じで一つひとつやっていけばいいと私は考える。

〈質問〉伯耆町でボランティアをしておられる方は、無償か有償かどちらか。

【答弁】学校支援コーディネーター、地域コーディネーターの方は有償で、詩の暗唱やミシンかけなどボランティアの方は無償である。ただ、スキー指導などの技術指導は有償である。

〈質問〉めざす子ども像と学校教育目標、この両者の関係性をどのようにとらえておられるのか。

【答弁】学校教育目標の下にはめざす子どもの姿があると思う。学校教育目標とめざす子どもの姿は別のものではない。必ず関係している。学校教育目標の具体的姿としてめざす子どもの姿がある。学校運営協議会に示されるときにそれが出てこないといけない。めざす子どもの姿をもとにして学校教育目標がでてくると思う。

○謝辞（井田教育長より）

・伯耆町での実践をもとにお話いただきありがとうございました。日吉津村もコミュニティ・スクール導入に向けて取り組んでまいります。

（２）視察研修計画（長谷説明）

①委員研修 14名（マイクロバス使用 日帰り）

・時 期：10月予定 ・場 所：鳥取県内 ・参加者：委員全員

②役員研修 6名（公用車使用 1泊2日）

・時 期：10月～11月予定 ・場 所：中・四国管内

・参加者：委員長、副委員長、教育長、教育課長、小学校長、地域コーディネーター

③全国コミュニティ・スクール研究大会 in とちぎ 3名（2泊3日）

・時 期：未定（昨年は8月に広島県府中市にて開催） ・場 所：栃木県

・参加者：教育長、小学校長、地域コーディネーター

・新型コロナウイルス感染症の感染が鳥取県東部、中部で確認されており、現在のところ委員研修については、西部地区内にて研修する予定である。しかし、西部地区内で受け入れの市町があるのか。もう少し感染症の発生状況等をみながら実施の方向で進めていくのか、少し先にするのか判断していきたい。

役員研修については、中・四国管内の新型コロナウイルス感染症の状況等をみながら実施できるのか、できないのか判断していく。

全国コミュニティ・スクール研究大会についても新型コロナウイルス感染症が拡大している中、実施されるのか、されないのか判断されることになると思う。

新型コロナウイルス感染症の感染状況等を考えると、研修計画を進めるのは難しい状況である。

（３）その他

・日吉津小学校の先生方と情報を共有するため「日吉津村コミ・スクだよりNo.1」を配布する。夏休み明けには、少し内容をかえて保護者宛てにコミュニティ・スクールについてチラシを配布する予定である。

〈意見〉子どもたちにも自分たちのために大人が取り組んでいることがわかるというと思う。

・第3回委員会の予定について：令和2年9月29日（火）午後7時30分～

4. 閉 会

午後8時55分